

工業簿記 標準原価計算（パーシャル・プラン）

パターン I 【差異分析】

A工場では、製品甲を量産しており、パーシャル・プランによる標準原価計算を採用している。次の【資料】にもとづいて、下記の問題に答えなさい。なお、 α 材料は工程の始点ですべて投入され、 β 材料は工程の50%の時点ですべて投入される。

【資料】

1. 製品甲1個当たりの標準原価

α 材料費	標準単価	5,000円/個	標準消費量	1個	5,000円
β 材料費	標準単価	1,250円/個	標準消費量	2kg	2,500円
加工費	標準配賦率	1,500円/時間	標準直接作業時間	1時間	1,500円

加工費は変動予算を用いている。年間加工費予算は108,900,000円（うち固定費予算は72,600,000円）、年間製造直接作業時間は72,600時間である。

2. 生産データ

月初仕掛品量	400個 (60%)
当月投入量	<u>5,800個</u>
合計	6,200個
月末仕掛品量	<u>200個 (40%)</u>
完成品量	<u><u>6,000個</u></u>

※（ ）内は加工費の進捗度である。

3. 当月の実際直接作業時間 6,020時間

4. 当月の実際製造費用

- α 材料費：29,028,000円（@4,920円/個×5,900個）
- β 材料費：13,970,000円（@1,270円/個×11,000kg）
- 加工費：9,100,000円（うち、固定費は6,000,000円）

問1 月末仕掛品原価及び完成品原価を答えなさい。

当月の月末仕掛品原価

円

当月の完成品原価

円

問2 製造間接費の差異分析を行いなさい。なお、予算差異および能率差異については、固定費と変動費に分けて解答すること。

予算差異（変動費）

円（ 有利差異 ・ 不利差異 ）

予算差異（固定費）

円（ 有利差異 ・ 不利差異 ）

能率差異（変動費）

円（ 有利差異 ・ 不利差異 ）

能率差異（固定費）

円（ 有利差異 ・ 不利差異 ）

操業度差異

円（ 有利差異 ・ 不利差異 ）

参考メモ【仕掛品ボックス・シュラッター図】

【ボックスAパターン：解説用】

仕掛品－ α 材料費

月初有高		当月完成	
当月投入		月末有高	
原価差異		原価差異	

※原価差異は、どちらか一方に数字が入ります。

仕掛品－ β 材料費

月初有高		当月完成	
当月投入		月末有高	
原価差異		原価差異	

※原価差異は、どちらか一方に数字が入ります。

仕掛品ー加工費

月初有高		当月完成	
当月投入		月末有高	
原価差異		原価差異	

※原価差異は、どちらか一方に数字が入ります。

【ボックスBパターン：実際の解答用】

仕掛品

月初有高		当月完成	
当月投入		月末有高	
原価差異		原価差異	

※原価差異は、どちらか一方に数字が入ります。

